［　横浜市陶芸センター　］
令和６年度業務報告及び収支決算
［　シンリュウ株式会社　］

※　文中の事業欄において、
●：主催事業　○：共催事業
を示します。
※　文中の達成指標欄において、
□：定量的指標　■：定性的指標
を示します。

１　施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯１棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積　396 ㎡　登り窯延床面積　60 ㎡
開館日	平成５年８月

２　指定管理者

法人名	シンリュウ 株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514－2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成２年４月 26 日
指定期間	令和４年４月１日～令和９年３月 31 日まで
現指定管理者の管理運営開始日	平成 18 年４月１日から

３　指定管理に係る業務方針　指定管理業務実施にあたっての方針

（１）基本的な方針の総括

横浜市陶芸センターの役割は陶芸を通して、あらゆる世代が活躍できる魅力あるまちづくりに貢献することを基本理念とし、陶芸に親しむ機会を多くの市民に提供できるよう活動してまいりました。市民の作陶技術向上の支援や、陶芸の普及を図りつつ、柔軟で安定的な管理運営業務を実施しました。また、令和６年度はこれまでの運営経験を活かしながら、次の４つの方針のもと運営を行いました。

1.　作陶講座を常に充実・向上させる

限りあるスペースを最大限活用しながらニーズに合わせた講座を開催しました。講座ごとに改善点を見直し、より多くの方に陶芸に親しむ機会を提供しました。初めて陶芸を体験する方に

向けた講座、より本格的な陶芸を学びたい方に向けた専門講座、全国陶芸産地の粘土・釉薬・焼成方法を取り入れた全国のやきものを楽しむ講座等、積極的に講座内容の充実に取り組みました。

2. 陶芸知識の基地化、次世代育成の支援を推進する

陶芸文化の拠点として、YouTube を活用し菊練りから本焼きまでの 6 工程を更に 14 工程に細分化し分かりやすい陶芸知識の発信や陶芸ライブラリーの充実を図るほか、子ども、陶芸愛好家、陶芸指導者からの相談対応を実施しました。

また、親子陶芸教室や要望に応じた団体教室（オーダープラン）、近隣の幼稚園などへ出張教室等を開催しました。4 年ぶりに開催した招待作家講座（現在活躍している陶芸家を招く講座）では、陶芸の新しい時流を感じて頂き、施設スタッフも含めた施設の活性化を推進しました。

3. 地域社会との連携に取組む

隣接している三溪園や本牧市民公園、八聖殿と連携し、陶芸祭や共催企画を行いました。

三溪園との共催企画として、市民の方が陶芸センター内で制作した茶碗でのお点前体験を企画しました。また、今年度初の試みとして間門小学校の総合学習授業に協力し、校内での展示に向けての作陶指導を行うなど、陶芸に親しんでもらうだけでなく、周辺施設や市民の方との繋がりを深められるよう取り組みました。

緊急時の避難経路として三溪園南門からの経路を三溪園様と協議しました。

4. 環境に優しい施設を目指す

大量の産業廃棄物となる使用済み粘土のリサイクル等に取組んだほか、不良在庫を減らすための期間限定粘土・釉薬の導入や酸化金属を含む釉薬を下水に流さないなど、自然環境に配慮した施設運営を行いました。

（2）令和 6 年度の業務の報告

ア　全体について

令和 6 年度の事業運営は、陶芸人口の裾野拡大を目指し、指定期間第 4 期の 3 年目として、前年度に取り組んだ事業を踏まえてさらに充実した事業運営に取り組みました。

あらゆる世代、ニーズに対応するために様々な講座を企画し、市民が陶芸に親しむ機会となるような講座を実施しました。陶芸祭や他施設との共催企画、団体教室や出張教室では近隣の施設と連携し、地域の活性化や陶芸を媒介としたネットワーク構築推進に取り組みました。

持続可能性を高める施設運営として、日常的な施設建物・設備の点検、効率的な運営を行い、粘土・釉薬の再生に取り組みました。また、2 月には大規模な給水管工事を実施し、施設環境の向上に繋げました。

来年度も陶芸に親しむ機会を市民に提供し、陶芸文化・知識を発信する拠点となる施設としての役割を果たせるよう、事業運営についても検証し、改善を図ります。

イ　使命１　陶芸に親しむ機会を提供する

初心者や子ども、経験者まで様々な方が参加しやすい講座を開催しました。自主事業講座を①

体験型教室②基礎型教室③自立型教室の 3 つに分類し、あらゆる人々に対応した様々なテーマの講座を実施しました。

① 体験型講座として、気軽に一日陶芸体験（手びねりコース/電動ロクロコース）、ゴールデンウィーク陶芸体験（手びねりコース/電動ロクロコース）、ゆったり丸一日陶芸体験、夏休み親子陶芸体験を開催しました。また、令和 6 年度初めての試みとして子どもオープンスタジオを開催しました。オープンスタジオの陶芸体験は 43%の方が初めて陶芸を体験される方でした。陶芸センターの認知度の向上に繋がるとともに、多くの市民の方に陶芸に親しむ機会を提供することができました。

② 基礎型教室として、陶芸入門 4 日間コース、同 3 日間コース、同 2 日間コースを開催しました。

③ 自立型教室として、自由作陶教室（10 回コース）第 2 自由作陶教室(10 回コース)を開催しました。自由作陶教室は前年度より新規申込者が 15%増加しました。

ウ　使命２　市民の主体的な作陶活動を支援する

市民の主体的な作陶活動の支援を①追求型講座と②専門技術習得講座の 2 つに分類し、より深く陶芸に取り組める場を提供しました。アンケート調査や利用者への聞き取りを行い、改善点を分析し満足度向上に努めました。

① 追求型講座として、全国やきもの講座、還元焼成講座、大物焼成講座を開催し、作陶展も実施しました。作陶展では 9 年ぶりの人気投票を行い、利用者の制作意欲の向上を促すとともに利用者間での交流を深めるきっかけ作りに取り組みました。

② 専門技能習得講座として、電動ロクロ水挽徹底講座、絵付け講座（上絵付講座/染付講座）、招待作家講座を開催しました。招待作家講座は新型コロナウィルス拡大防止のため開催を見合わせていましたが、4 年ぶりに開催し、盛況を博しました。

エ　使命３　陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

作陶活動の拠点として地域施設と連携する取り組みを①支援型講座､②共催企画の 2 つに分類し、講座・企画を設定することで陶芸を介して様々な支援に取り組みました。

① 支援型講座として陶芸の指導者等を対象にした指導者研修講座、団体教室（通常プラン/オーダープラン）、出張教室を開催しました。

② 共催企画として、本牧市民公園の秋祭りと連携して陶芸祭を開催し、陶芸センターで制作した植木鉢に本牧市民公園の植木を合わせた植木鉢の販売を行ったほか、三溪園との共催企画として陶芸センターでの楽茶碗の制作と三溪園でのお点前体験を実施しました。また、令和 6 年度は間門小学校の総合学習授業にも協力し、作陶指導を行いました。県外からの取材や撮影も随時協力し、陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進することができました。

オ　使命４　持続可能性を高める施設運営を行う

持続可能性を高める取組みとして、①日常的な施設建物・設備の点検②環境に優しい施設維持管理③効率的な運営の努力を行い、施設の安全・快適な維持管理と安定的な施設運営を目指しました。

① 日常的な施設建物・設備の点検として、毎日の見回り点検と道具類のメンテナンスを行いま

した。

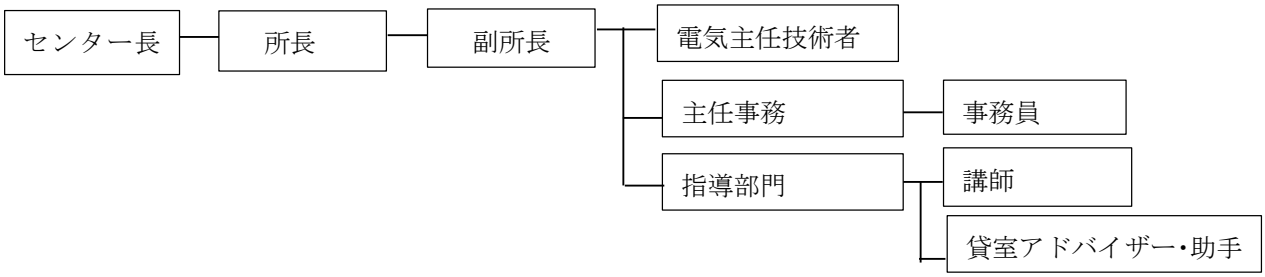
② 環境に優しい施設維持管理として粘土・釉薬の再生に取り組みました。

③ 効率的な運営の努力として、業務マニュアルの改善や受付業務の IT 化を推進しました。

4　運営組織の構造、人員配置

項目	人数	備考
センター長	1 人	全体総括責任者
所長	1 人	事業・運営・管理・個人情報管理・全業務現場責任者
副所長	1 人	講座運営企画・施設維持管理・備品管理責任者 緊急時所長代行・緊急時講師代行 防火責任者・広報・講師事務総括（事務、指導部門との調整）
主任事務	1 人	講師事務総括、緊急時副所長代行、広報、講座運営企画、備品管理責任者、施設維持管理
事務員	2 人	受付業務、ローテーション勤務
講師	11 人	教室の指導、一部アドバイザー・助手兼務　ローテーション勤務
貸室アドバイザー・助手	6 人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
電気主任技術者	1 人	電気設備点検・維持・管理

＜組織図＞



事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務体制とし、効率的に業務を遂行しました。事務部門、指導部門との円滑な連携を図るため、講師も兼任できる技量を持つ社員を 1 名配置しました。

５　使命の指標の達成状況と重点的取組事項

（１）　使命１　陶芸に親しむ機会を提供する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目		Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	総来場者数		10,929人	11,000人	11,621人	11,395人		13,000人	
2	次世代育成を目的とした事業の実施回数		5回	5回	5回	5回		7回	
3	各事業のターゲット設定（初心者、中級者等）及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割合（アンケート集計）		82%	60%	90%	89%		80%	
4	参加者の満足度（アンケート調査）		94%	70%	96%	96%		80%	
5★	体験型教室	気楽に一日陶芸体験（手びねり）	7回/年	7回/年	7回/年	7回/年		7回/年	
			108人	84人	120人	149人		84人	
		気楽に一日陶芸体験（電動ロクロ）	7回/年	7回/年	7回/年	7回		7回/年	
			117人	84人	115人	140人		84人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験（手びねり）	5回/年	5回/年	5回/年	3回/年		5回/年	
			77人	60人	59人	49人		60人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験（電動ロクロ）	5回/年	5回/年	5回/年	3回/年		5回/年	
			75人	60人	69人	59人		60人	
		ゆったり丸一日陶芸体験	7回/年	7回/年	7回/年	7回/年		7回/年	
			104人	84人	104人	86人		84人	

		夏休み親子陶芸教室	5 回/年	5 回/年	5 回	5 回		7 回/年	
			97 人	100 人	121 人	100 人		140 人	
6 ★	基礎型教室	陶芸入門 4 日間講座	5 回/年	5 回/年	5 回/年	5 回/年		5 回/年	
			141 人	120 人	160 人	209 人		120 人	
		陶芸入門 3 日間講座	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
			24 人	18 人	21 人	30 人		18 人	
		陶芸入門 2 日間講座	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
			10 人	12 人	10 人	12 人		12 人	
7 ★	自律型教室	自由作陶教室（10 回コース）の開催	4 回/年	4 回/年	4 回/年	4 回/年		4 回/年	
			5380 人	6358 人	5500 人	5103 人		6720 人	
		第 2 自由作陶教室（10 回コース）の開催	4 回/年	4 回/年	4 回/年	4 回/年		4 回/年	
			243 人	328 人	435 人	598 人		328 人	

イ　定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の意見聴収及び分析	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施
		Ｒ６実績	実施
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

ウ　使命１を達成するために重点的に取り組んだ事項

・次世代育成を目的した事業として、初の試みとなった子供オープンスタジオでは、多くの子どもたちが手びねりや電動ロクロ、絵付けを体験したほか、様々な陶芸の道具に触れられる展示も企画しました。

・基礎型教育において、これまでのアンケート調査結果から新たなテーマを取り入れた陶芸入門 4 日間講座を開催し、受講後のアンケートでは満足度 100％の結果でした。

・自立型教室において、新しい釉薬や期間限定粘土を導入し、利用者に飽きさせない工夫を凝らしました。

エ　使命１の令和６年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
体験型教室	・一日陶芸体験 ・ゴールデンウィーク陶芸体験 ・ゆったり丸一日陶芸体験 ・夏休み親子陶芸体験	・一日陶芸体験は申込受付初日に定員がほとんど埋まることも多く、年間を通した講座全体の満足度も 91%と高い満足度を維持することができました。 ・10 歳以下の参加が最も多く、次いで親世代の 40 代が多く参加されています。利用者の高齢化が進むなか、比較的若い世代の利用者を多く獲得することができました。 ・全ての体験型講座において、目標人数を達成出来ました。	・家族連れで繰り返し受講される方も多い講座のため、テーマに季節性を出すなど飽きさせない工夫を検討します。
基礎型講座	・陶芸入門 4 日間コース ・陶芸入門 3 日間コース ・陶芸入門 2 日間コース	・カリキュラムの中に手びねりや電動ロクロ、下絵付け、釉掛けなどの作陶工程を取り入れ、一日陶芸体験より一歩踏み込んだことにより各コース 80%以上の高い満足度を得ました。 ・特に今年度の 4 日間講座は回ごとに「蓋物講座」や「パスタ皿講座」「すり鉢講座」などのサブテーマを設けたことによる満足度 100％の結果でした。	・受講者の制作意欲を引き出すような講座の企画に努めます。基礎型講座から自由作陶教室への申込に繋げていくことが今後の課題です。
自立型講座	・自由作陶教室 ・第 2 自由作陶教室	・自由作陶教室は前年度より新規申込者が 15%増加しました。	・60 代以上の利用者が 80%と高齢化が進んでいます。体験型講座や基礎型講座の若年層を自立型教室に繋げていくことが課題です。
次世代育成への取り組み	・今年度初の試みとして、オープンスタジオを開催しました。陶芸知識にまつわる展示物や道具の展示、陶芸体験を実施しました。	・オープンスタジオで開催した陶芸体験では、43％が初めて陶芸に触れる方でした。陶芸の普及と陶芸センターの認知度拡大に繋がる企画になりました。	・参加者のさらなる増加を目指し、より広く企画を周知させるための広報に力を入れます。

（２）　使命２　市民の主体的な作陶活動を支援する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目			Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	貸館（貸室）利用者数			3,698人	3,920人	3,842人	3,514人		4480人	
2	作陶に関する専門技能や知識習得につながる事業の実施回数			22回	17回	21回	21回		20回	
3	利用者満足度（アンケート調査）			91%	70%	隔年調査のため、次年度に調査	96%		80%	
4★	追求型講座	全国やきもの講座		3回/年	2回/年	2回/年	2回/年		4回/年	
				126人	70人	81人	52人		140人	
		還元焼成講座		4回/年	4回/年	4回/年	4回/年		4回/年	
				270人	300人	423人	384人		300人	
		大物焼成講座		12回/年	12回/年	11回	11回/年		12回/年	
				14人	24人	22人	30人		24人	
		作陶展		1回/年	1回/年	1回/年	1回/年		1回/年	
5★	専門技能習得講座	電動ロクロ水挽き徹底講座		1回/年	1回/年	1回/年	1回/年		2回/年	
				39人	24人	46人	56人		48人	
		絵付け講座	上絵付（3日間コース）	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年		1回/年	
				27人	18人	21人	33人		18人	
			染付（1日間コース）	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年		1回/年	
				9人	6人	9人	19人		6人	
		招待作家講座		未実施	1回/年	未実施	1回/年		1回/年	
				0人	14人	0人	31人		14人	

イ　定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握（利用者との意見交換等）	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施
		Ｒ６実績	実施
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

ウ　使命２を達成するために重点的に取り組んだ事項

陶芸産地の粘土・釉薬を気軽に体験できるように、予約販売の期間限定粘土として備前土と土鍋制作用の耐熱ナベ土、新規釉薬として「一号黄瀬戸釉」「ルリ釉」「マンガン窯変結晶釉」を導入しました。令和４年度にも備前の山土を扱いましたが、令和６年度は非常にきめの細かい田土を導入しました。同じ産地であっても、採る場所により全く異なる表情をみせる粘土の奥深さに触れられる企画となりました。ルリ釉は利用者からのリクエストにより導入し、年間を通して高い人気がありました。

エ　使命２の令和６年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
貸室	・貸室利用貸出 ・利用者に対するアンケート調査の実施	・アンケート調査の結果、貸室利用者の年齢層等、属性の傾向が把握できました。 アンケート結果に基づき令和７年に向けて利用拡大の施策を計画予定です。 ・貸室は 88%の利用者が 4 年以上継続して通われています。講師や事務スタッフへの満足度も 80%以上の高い満足度となりました。	・貸室は 60 代以上の利用者が 76%、30 代以下が 0%となっています。将来に向けて、30 代以下の利用者をいかに貸室申込に繋げていくかが課題です。また、事務スタッフや講師に対する評価は高いものの、ご利用いただける釉薬や粘土、焼成、道具貸出については満足度が 40%前後という残念な結果になりました。道具貸出についてはアンケート調査でも再開を希望する声があり、令和７年度から再開します。新しい粘土や釉薬を提供するだけではない、利用者の興味関心を引き出す講座の企画や、普段の教室利用の満足度を上げていく取り組みを考えていきます。

専門技能習得講座	・招待作家講座 ・電動ロクロ水挽講座 ・上絵付講座 ・染付講座	・令和２年度から中断していた招待作家講座を再開しました。 ・電動ロクロ水挽徹底講座、上絵付、染付講座は目標を大きく上回る実績となりました。	・専門技能習得講座には多くの申込がありますが、定員の関係でお断りすることも多いのが現状です。陶芸センターにとっても利用者を取り込む機会を損失していると考えます。人気の講座は講座数を増やすなどして、多くの申込希望に応えられる講座スケジュールを検討します。

（３）　使命３　陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目		Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	技術向上、指導力養成、出張教室を実施した回数		３回	２回	２回	２回		５回	
2	地域の施設・団体等と共催・連携して実施する事業数		16 事業	10 事業	10 事業	10 事業		15 事業	
３★	支援型講座	指導者研修講座	２回/年	２回/年	２回/年	２回		２回/年	
			38 人	48 人	26 人	10 人		48 人	
		団体教室（通常プラン）	９回/年	５回/年	10 回/年	19 回/年		８回/年	
			141 人	150 人	159 人	364 人		240 人	
		団体教室（オーダープラン）	３回/年	５回/年	２回/年	４回/年		７回/年	
			49 人	150 人	38 人	45 人		210 人	
		出張教室	１回/年	１回/年	１回/年	１回/年		３回/年	
			８人	15 人	16 人	21 人		45 人	

4 ★	共催企画	三溪園共催企画	2 回/年	1 回/年	2 回/年	2 回/年		1 回/年	
			71 人	30 人	63 人	64 人		30 人	
		本牧市民公園、地域商店街との共催企画	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
		楽焼体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
		利用者数	25 人	20 人	33 人	34 人		20 人	
		手びねり体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
			18 人	16 人	40 人	48 人		16 人	
		電動ロクロ体験教室（陶芸祭体験）	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年		1 回/年	
			20 人	16 人	54 人	47 人		16 人	
		陶芸文化鑑賞講座（隔年開催）	隔年開催のため R4 無し	1 回/年	1 回/年	隔年開催のため R6 無し		1 回/年 隔年開催 R7 実施予定	
			隔年開催のため R4 無し	15 人	8 人	隔年開催のため R6 無し		15 人	

イ　定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したことによる関係者の意見聴収及び分析	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施
		Ｒ６実績	実施
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

ウ　使命３を達成するために重点的に取り組んだ事項

いつでも気軽に陶芸についての質問・疑問に対応できるように、常時電話・メールでの相談対応を受け付けました。指導者研修講座受講者からは受講後も陶芸についての相談対応を行っています。令和６年度は近隣の小学校の総合学習授業に協力し作陶指導を行ったほか、小学館で出版された図鑑の取材・撮影協力も行い、積極的にネットワークを広げました。陶芸祭では地域のボランティア団体のブースを設けるなど、市内外を問わず、陶芸を介して様々な繋がりを持ちました。

エ　使命３の令和６年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
支援型講座	・指導者研修講座 ・団体教室(通常プラン/オーダープラン) ・出張教室	・団体教室通常プランでは前年を大きく上回る申込数と人数になりました。前年度にお申込みいただいた団体の半数からリピートしていただきました。	・指導者研修講座は年々人数が減っています。現在郵送での DM 送付を主に広報活動をしていますが、送付数に対しての申込数が少ないため新たな宣伝方法を検討します。 ・オーダープランでは、現在のターゲットである学童や幼稚園だけでなく、友達家族や仲間同士など、新たな層にアプローチをするための広報が必要だと考えます。
共催企画	・三溪園共催企画 ・本牧市民公園、地域商店街との共催企画	・三溪園共催企画「楽茶碗を作る・楽茶碗を点てる」では前回よりもリピーター層が 10%増加しました。 ・陶芸祭では、陶芸センターで制作した植木鉢に本牧市民公園の植木を植えた植木鉢の販売を行うなど、陶芸を介して近隣施設との交流を深めました。	・三溪園共催企画での楽茶碗制作は今年で 3 年目となりリピーターも多いため、新たな企画が課題です。来年度はテーマを新たに開催し、受講者の意欲向上を目指します。

（４）　使命４　持続可能性を高める施設運営を行う

ア　定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項　目		Ｒ４実績	Ｒ５達成指標	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８達成指標	Ｒ８実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数		０件	０件	０件	０件		０件	
2	法定点検等の実施率100％		100％	100%	100%	100%		100%	
3	修繕予算の執行率90％以上		99％	90%	100%	23%		90%	
4★	日常的な施設建物・設備の点検	施設建物目視点検	毎日	毎日	毎日	毎日		毎日	
		陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週１回	週１回	週１回	週１回		週１回	
5★	環境に優しい施設維持管理	粘土・釉薬の再生（リサイクル）	月２回	月２回	月２回	月２回		月２回	
		粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日	毎日	毎日	毎日		毎日	
		排水溝・桝掃除	年２回	年２回	年２回	年２回		年２回	
		登り窯（レプリカ）の適切な管理	年９回実施	２ヶ月１回	２ヶ月１回	２ヶ月１回		２ヶ月１回	
6★	効率的な運営の努力	早めの計画	週１回	週１回	週１回	週１回		週１回	
		業務マニュアルの見直しと改善	年１回	年１回	年１回	年１回		年１回	

イ　定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施
		Ｒ６実績	実施
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	
2	管理運営費推移の要因分析	Ｒ４実績	実施
		Ｒ５達成指標	実施
		Ｒ５実績	実施
		Ｒ６実績	実施
		Ｒ７実績	
		Ｒ８達成指標	実施
		Ｒ８実績	

ウ　使命４を達成するために重点的に取り組んだ事項

施設･設備の毎日の見回り点検と小まめな修繕、定期的な施設の維持管理を実施しました。今年度は２月に大規模な給水管工事を行い１ヶ月間の休講となりましたが、シンクの交換や水道栓の増設なども実施し、赤水が出る問題も解消されました。洗い場の蛇口もレバー式に交換し、土のついた手や力の弱い方でも扱い易くなりました。

エ　使命４の令和６年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
施設環境維持・管理	・粘土・釉薬の再生（リサイクル） ・粘土・釉薬を直接下水に流さない ・排水溝・桝掃除 ・登り窯（レプリカ）の適切な管理	・毎日の清掃と年２回と定期点検を実施し快適な施設維持に努めました。	・管理瑕疵まではいかないものの、職員が施設内のスロープで足を踏み外し骨折をする事故がありました。スロープ幅の拡大と滑り止め、注意書きを行いましたが、建物の老朽化も進んでおり安全対策が課題です。

６　その他の令和６年度における成果と課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
給水管工事	・赤水工事 ・流し台の交換 ・男性用小便器交換	・水道から赤水が出る問題を解消しました。 ・流し台とレバーを交換し、より良い作陶環境を整備しました。	・利用者の方に快適にご利用いただくためにさらなる改善に努めます。

（指定管理者が記入する様式）

令和6年度　「横浜市陶芸センター」　収支予算書及び報告書

収入の部　　（税込、単位：円）

科目	当初予算額（A）	補正額（B）	予算現額（C=A+B）	決算額（D）	差引（C-D）	説明
指定管理料	20,100,001		20,100,001	20,100,001	0	横浜市より
利用料金収入	2,850,000		2,850,000	3,097,950	△ 247,950	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	16,550,000		16,550,000	18,520,008	△ 1,970,008	自主事業講座料・自主事業焼成費、教室・貸室粘土代
雑入	725,000	0	725,000	693,212	31,788	
印刷代	5,000		5,000	900	4,100	コピー代金
自動販売機手数料	120,000		120,000	144,368	△ 24,368	
駐車場利用料収入			0	0	0	
その他	600,000		600,000	547,944	52,056	受取利息・陶芸材料売上・古紙ﾙｰﾄ収入・雑収入
収入合計	40,225,001	0	40,225,001	42,411,171	△ 2,186,170	

支出の部

科目	当初予算額（A）	補正額（B）	予算現額（C=A+B）	決算額（D）	差引（C-D）	説明
人件費	15,739,019	0	15,739,019	17,202,119	△ 1,463,100	
給与・賃金	13,419,019		13,419,019	15,302,854	△ 1,883,835	
社会保険料	1,500,000		1,500,000	1,111,516	388,484	社会保険・雇用保険
通勤手当	750,000		750,000	747,174	2,826	通勤費
健康診断費・福利厚生	70,000		70,000	40,575	29,425	福利厚生・香典、見舞金他
勤労者福祉共済掛金	0		0		0	
退職給付引当金繰入額	0		0		0	
事務費	3,113,500	0	3,113,500	2,357,196	756,304	
旅費	10,000		10,000	27,257	△ 17,257	交通費
消耗品費	600,000		600,000	363,815	236,185	
会議賄い費	7,500		7,500	51,300	△ 43,800	
印刷製本費	760,000		760,000	603,265	156,735	講座ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ・ﾁﾗｼ・広告宣伝費
通信費	350,000		350,000	476,741	△ 126,741	電話料金・郵便料金他
使用料及び賃借料	436,000	0	436,000	441,119	△ 5,119	
横浜市への支払分	220,000		220,000	237,119	△ 17,119	ごみゼロルート回収費・目的外使用料
その他	216,000		216,000	204,000	12,000	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000	82,645	417,355	ロッカー・ﾊﾟｿｺﾝ部品・事務用品他
図書購入費	20,000		20,000	2,200	17,800	陶芸ライブラリー用陶芸図書購入費
施設賠償責任保険	60,000		60,000	78,744	△ 18,744	施設管理者賠償責任保健・動産総合保険・レジャーサービス費用保健
職員等研修費	20,000		20,000	13,600	6,400	陶芸教材用ﾃｷｽﾄ代
振込手数料	60,000		60,000	71,695	△ 11,695	
リース料	110,000		110,000	90,255	19,745	電動ロクロ・小型電機窯・コピー機リース料
手数料	180,000		180,000	54,560	125,440	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞﾄﾞﾒｲﾝ管理・会計ｿﾌﾄｻﾎﾟｰﾄ料
地域協力費	0		0	0	0	
事業費	12,500,000	0	12,500,000	12,960,932	△ 460,932	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0		0	
自主事業費	12,500,000		12,500,000	12,960,932	△ 460,932	陶芸材料仕入れ・業務委託料
管理費	5,284,290	0	5,284,290	4,720,352	563,938	
光熱水費	1,520,000	0	1,520,000	1,387,809	132,191	
電気料金	900,000		900,000	868,118	31,882	三相・200V、単相・100V電気料金
ガス料金・灯油料金	220,000		220,000	192,729	27,271	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ・灯油窯用灯油
水道料金	400,000		400,000	326,962	73,038	上下水道料金
清掃費	2,200,000		2,200,000	2,188,450	11,550	毎日清掃（毎日）・定期清掃（年2回）
修繕費	500,000		500,000	109,366	390,634	備品設備他
機械警備費	400,000		400,000	402,088	△ 2,088	開館時以外常時機械警備（365日）
設備保全費	664,290	0	664,290	632,639	31,651	
空調衛生設備保守	410,000		410,000	315,568	94,432	定期保守点検・室内送風機洗浄他
消防設備保守	88,000		88,000	88,000	0	消防設備点検
電気設備保守	150,000		150,000	187,000	△ 37,000	電気炉他保守点検（年1回）電気設備取付・保守
害虫駆除清掃保守	11,000		11,000	25,592	△ 14,592	スズメ蜂・蚊用殺虫剤・蚊取り線香
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	5,290		5,290	16,479	△ 11,189	松葉清掃及び排水汚泥収納廃棄用袋
共益費	0		0	0	0	必要に応じて支出
公租公課	1,700,010	0	1,700,010	1,813,885	△ 113,875	
事業所税	0		0	0	0	事業所床面積と従業者数が標準に満たないため
消費税	1,700,000		1,700,000	1,812,800	△ 112,800	実績に基づく試算
印紙税	0		0	400	△ 400	
その他（　　）	10		10	685	△ 675	受取利息からの納税分
事務経費　（計算根拠を説明欄に記載）	1,829,200	0	1,829,200	1,765,724	63,476	
本部分	1,069,200		1,069,200	1,069,200	0	本社労務管理費等
当該施設分	760,000		760,000	696,524	63,476	事務用品費
ニーズ対応費	0		0	0	0	
支出合計	40,166,019	0	40,166,019	40,820,208	△ 654,189	
差引	58,982	0	58,982	1,590,963	△ 1,531,981	

自主事業費収入	15,709,200			18,520,008		講座料・焼成費・粘土代
自主事業費支出	12,364,000			12,960,932		業務委託費・陶芸材料仕入
自主事業収支	3,345,200			5,559,076		

管理許可・目的外使用許可収入	720,000			692,312		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出	180,000			237,119		陶芸材料支払い分・賃借料・ゴミゼロルート回収費
管理許可・目的外使用許可収支	540,000			455,193		